地域で生きるということ

民間企業で働く知的障害のある青年とその父親の語りから学ぶ

企画者　杉山 章　（東海学院大学 人間関係学部）
司会者　杉山 章　（東海学院大学 人間関係学部）
話題提供者　中島光陽　（株式会社 ハウテック）
中島茂美　（保護者会 ホープフルハーツ）
田口めぐみ（余暇支援団体 益田どんぐりの会，岐阜県心身障害児教育研究会）
指定討論者　神野幸雄　（岐阜大学 教育学部）

KEY WORDS: 知的障害　地域生活　当事者の語り

【企画趣旨】

私たちは，岐阜県で毎年 1 回ではあるものの，7 年にわたり，当事者とその家族，支援者が自身の歩みやこれからの夢などを語る会を企画し運営してきた。毎回数十名ほどの様々な立場（当事者，保護者，保育者，教員，療育関係者など）の参加者がおり，その語りから各々が学んできた。

岐阜県内の特別支援学校では，障害種別ではなく「総合化」の取組が進められ，子ども達は一層自分の「地域」で生活するようになってきている。岐阜県内で障害児の療育，知的障害者の生涯福祉の実践をしてきた柚木（2003）は，自らの歩みを振り返り「長いライフステージを，子どもをもって苦悩する親たちと，共に教育を実践し，共にライフステージに見合った子どもの生活拠点をつくりつつ，共に一歩ずつ歩むということ」が重要であるとし，ライフステージを見渡した物的人的リソース，それらの繋がりの質が，当事者の地域生活に影響を及ぼすことを示唆した。

本シンポジウムでは，当事者である中島光陽さんと，その父親である中島茂美さんに，これまでのあゆみと今の生活，これからの生活について体験や思いを語ってもらう。また，親子を近くで長年支援してきた田口めぐみさんにも，親子の状況や支援について語ってもらう。そこから「地域で生きる」ことについて，当事者とその家族，支援者の繋がりについて考えを深めたい。

【話題提供者の趣旨】

話題提供①「当事者・家族の身近な支援者の語り」

田口めぐみ（益田どんぐりの会，岐阜県心身障害児教育研究会）

本シンポジウムで話題提供する当事者の中島光陽さんとその父親である中島茂美さん，そして支援者として関わってきた私が居住する G 県 G 市は，人口約 3 万 3 千人の山間部にある自治体である。支援体制や人材に不十分な面はあっても，人と人との結びつきが濃密で，心の通った支え合いができる地域であるといえる。

光陽さんが小学生の頃から，学校の授業を参観したり，交流活動を一緒に楽しんだりしながら，成長を見守ってきた。また，茂美さんが代表を務める親子の会が，特別支援学校の新設を要望する運動をした時には，多くの市民が賛同して，7 万人近い署名が集まった。

中島さん親子や多くの親子と今もお付き合いが続いており，小回りの効く小さな自治体ならではの，息の長い支援ができていると感じている。

話題提供②「当事者の語り」

中島光陽（株式会社 ハウテック）

地域の小中学校の特別支援学級に在籍していた頃は，学校にも仲間にもあまり馴染めなかったように思う。その後，地域の特別支援学校高等部に自宅から通学した。そこでは，自分に合った生活や学習ができ楽しかった。生徒会長として仲間からも頼りにされ，初めて学校を自分の居場所だと思えた。高等部での作業学習が現在の就労に繋がり，大手住宅メーカーのドアを製造する会社に勤めて 6 年目になる。自分の特性に合った木製ドアの塗装の仕事に携わっている。同じ部署の班長やリーダーが，仕事では厳しく，仲間としては温かく接してくれる。今後の夢は，自分の部署に後輩が入ってきて，自分が仕事を教える立場になってみたいと思っている。

趣味はドライブやプロレス観戦である。自家用車をローンを組んで手に入れた。会社の仲間とドライブに出かけたり，プロレスの試合を遠くまで運転して見に行ったり充実した日常を過ごしている。

話題提供③「当事者家族の語り」

中島茂美（ホープフルハーツ）

息子が小学生の頃に，地域に気軽に参加できる親の会がなかったので，周囲の親に働きかけて親子の会「ホープフルハーツ」を立ち上げた。息子の中学校卒業を控え，通学できる範囲に特別支援学校が無いことから，他の親の会や PTA 連合会と連携して，特別支援学校の新設を県に要望し叶えることができた。親子の会を立ち上げた時には，軽い気持ちで始めたが，気がついたら，たくさんの組織と繋がって，こんな大きな仕事をやり遂げ，最高の喜びを味わうことができた。

息子が就労した今も「ホープフルハーツ」の活動や音楽療法の会を地域で続けている。今では，息子は小学生などの面倒をみる役割を果たしており，自分も若い保護者から相談を受けることが多い。振り返ると，気負わず楽しみながら活動してきたことが，長続きの要因だったと思う。

【指定討論者の趣旨】

神野幸雄（岐阜大学 教育学部）

知的障害のある人が「地域で生きる」ためには，労働者として認められる働く場と職場でのよい人間関係が保障されていると共に，生活者としての固有の願いを表現・実現し，それを承認・共有する家族との暮らしや仲間とのつながりが必要であると考える。そうした場や人間関係を地域の中で作っていくために，当事者（本人・家族）と共に，関係者がどのように協働していくことが求められるのかについて，議論を深めたい。

（文献）

柚木馥「知的障害者の生涯福祉－その実践的アプローチ－」，コレール社，1995.
柚木馥「地域で生きるということ－私たち教育臨床の『立場』とその歩み」，コレール社，2003.

(SUGIYAMA Akira, NAKASHIMA Kouyou, NAKASHIMA Shigemi, TAGUCHI Megumi, JINNO Yukio)